



▲1991 (平成3) 年 商大構内

小樽商科大学 広報誌

# Hermes COURRIER

ヘルメス・クーリエ

2009. July

# No. 23

特集：商大応援団を  
復活させよう .....1



▲1993 (平成5) 年 小樽市内

- 百周年コラム3 ..... 3
  - 百周年記念事業の日程決まる!
  - キャンパス美化事業
  - 創立百周年記念事業推進室を設置しました
- 附属図書館主催イベント .....4
  - ゆめぼーとライブ「ノーマ・フィールドさんの『小林多喜二』を読みませんか」を開催しました
  - 貴重図書展示会2009を開催しました
  - 本学教員が執筆した論文などを公開しています: Barrel
- 高大連携に関する包括連携協定の締結
- OBSフォーラム2009を開催しました .....5
- シリーズ先生紹介第18回 辻 義人 助教 .....6
- INFORMATION .....7



# 特集

▶1996(平成8)年 札幌市内



## 商大応援団を復活させよう

平成23年7月に小樽商科大学は創立百周年を迎えますが、1世紀に及ぶ本学の歩みを見守ってきたものに応援団があります。時に蛮声を張りあげて学友を鼓舞し、時に厳格な、あるいはユーモラスな立居振舞で喝采をさらった応援団でしたが、その伝統も時代には抗いきれず、近年は休眠状態にありました。しかし、1世紀という歴史のなせる業でしょうか、節目の年を間近にして、卒業生の間で応援団復活の声が高まるとともに、その声に応えようと動き出した現役商大生も現れました。今回は蛮カラ商大生を体現してきた応援団の復活に寄せる新旧の思いを紹介します。

### ～商大応援団とは～

#### 対北大定期戦と商大応援団の歴史

1912(明治45)年5月20日、農大(現北大)と野球の試合が行われました。対農大定期戦(後の対北大総合定期戦)の始まりです。娯楽の少なかった当時、両校学生のみならず、小樽、札幌両市民の、この定期戦に寄せる関心は大変なものがありました。1918(大正7年)に小樽花園公園で行われた野球戦では、押し寄せた観客が1万人であったと伝えられています。

1912年の野球試合で両校の学生による応援が行われたことが記録として残っています。商大応援団はこの野球戦をきっかけに発足したものと思われ、大正時代には、既に活動をしていました。

#### 商大応援団の華、対面式

戦争で中断されていた対北大定期戦ですが、終戦後の1946(昭和21)年に復活し、その頃から行われるようになったのが、いわゆる

対面式です。小樽と札幌が交互に会場となり、小樽の場合は駅前や東映前(現在の中央小公園)、花園グリーンロードが、札幌では駅前、三越前、中島公園、そして大通公園などが対決の場となりました。

両校応援団が学生を引き連れ、母校から出陣し街中を練り歩きます。会場では団長による独特の下駄歩きと挑戦状・応戦状の読み上げ、校歌斉唱、扇子を使った胡蝶の舞や雲龍型の演舞、団旗エール、寮歌斉唱などが厳かに行われました。両校応援団の真剣勝負の場であり、緊張感漂う式でした。同時に、ユーモア溢れる檄文や踊り、野次合戦が学生や市民の笑いを誘いました。商大応援団の華、一世一代の見せ場、それが対面式です。

しかし、商大応援団員不足のため、平成9年で中断してしまいました。

▶今年の緑丘祭で応戦状を読み上げる応援団OB。



▲1989(平成元年)年 小樽都通り



▲1960(昭和35)年頃 札幌駅前

若人逍遙の歌

高島 茂 作詞  
宮内 泰 作曲

(一)  
環珩融くる緑丘の  
春曙を逍遙へば  
浪漫の靄に街洗み  
風悠久の言葉あり  
瀾柔の桜花吹雪つつ  
あわただしくも逝く春の  
伝統古き学舎に  
展げる海のはてしなき





寄稿

# 百周年に向け 商大応援団復活へ！！

小樽商科大学応援団を復活させる会

## なぜ今、応援団復活なのか

商大に対する思いは、いつの時代も人それぞれです。しかし、校歌や若人逍遥の歌など、伝統的に歌い継がれてきた歌を歌える学生が皆無に近いことは、誠に憂慮すべき事態と考えます。親元を離れても小樽ではなく札幌に住むなど、札幌から通学する学生が約6割に達し、さらにサークルなどのコンパも札幌で行う。こうした話に触れると、学生の商大に対する思いの希薄化を危惧せざるを得ません。

「商大生」という自覚、更には「小樽の大学」に通っているという意識すら薄れ、通っているのは普通名詞の「大学」でしかない。このような学生ばかりになってしまっただけで、商大のみならず地元小樽にとっても、誠に好ましくないことであるのは論を待ちません。

母校愛の醸成という点で、学生寮と共に大きな役割を果たしてきたのが応援団であり、商大の歴史と伝統の象徴的存在でありました。商大創立百周年を間近に控えた今日、応援団復活は学生や大学はもとより、地域に密着した大学として、小樽にとっても必須有益なことであると我々は信じております。

## 入学式と緑丘祭活動報告

### 開学以来初！入学式での対面式

平成21年4月3日、小樽市民会館での入学式で、商大応援団OBと北大現役応援団による「模擬対面式」が行われました。ステージ上には羽織袴姿の双方応援団。太鼓、蛮声と共に演舞が始まり、歌とエールの交換が行われ、満場の拍手の中で終了しました。応援団復活に向け、まずは新入生にエールを送り、かつ応援団の存在について認識してもらおうと、当会が企画・実施しました。



▲2009(平成21)年 入学式

### 緑丘祭で対面式復活！

大学祭期間中の平成21年6月28日、体育館前において12年ぶりに「対面式」が復活しました。入学式に引き続き、商大生や小樽市民に応援団復活の動きを知ってもらおうと、緑丘祭の企画として当会が提案、緑丘祭実行委員会の協力で実現しました。

在校生のみならず、多数のOBや小樽市民が見守る中、白装束の参謀が式次第を読み上げました。かつての対面式同様、北大の挑戦状では「商大の山猿！」、商大の応戦状では「北大の白豚ども！」と、互いを揶揄し、また、双方の観客による野次合戦が繰り広げられました。最後には北大の「都ぞ弥生」、商大の「若人逍遥の歌」の大合唱と団旗エールによるエールの交換が行われ、大きな拍手に包まれました。



▲今年の緑丘祭にて

### 現役学生 の声 先輩が築いてきた伝統を残したい 商学部4年 小岩 宏行

私がこの応援団を復活させる会を知ったのは、百年史編纂室に保管される応援団の物品整理の手伝いをしたのがきっかけでした。

その後、会の活動や応援団の歴史を知る中で大きな感銘を受け、「商大が次の100年を見据えるためには、先輩が築き上げてきた伝統を残すべきだ。」という思いに駆られました。

現在、「一学生の立場からこの応援団という商大が誇る文化を復活させたい」という強い思いを持って、この「商大応援団を復活させる会」のお手伝いをしております。

応援団を復活させる会では、今後も大学で行われるビアパーティーでのデモンストレーションや、大学内での写真展を計画しています。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

ホームページ <http://ouc-endan.com/>  
メールアドレス [mail@ouc-endan.com](mailto:mail@ouc-endan.com)





## 百周年記念事業の日程決まる！

2011(平成23)年に小樽商科大学は創立百周年を迎えます。記念事業の核となる記念式典等の日程が決まりましたのでお知らせいたします。

予定の百周年記念事業は、市民や卒業生の皆様、また広く本学と関わりをもつ機関や企業の方々と共に祝うことをコンセプトにしています。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

各イベントの詳細は、決まり次第ホームページや新聞報道等でお知らせいたします。

### 【記念式典・祝賀会】

平成23年7月8日(金)

場所：グランドパーク小樽

### 【緑丘百周年祭】

平成23年7月9日(土)・10日(日)

場所：大学構内

9日(土) ①記念祝賀会・記念講演会

／学生・父母・卒業生・教職員を中心とした各種イベント

②ホームカミングデー／模擬講義・現役生 卒業生合同部活等の各種イベント

10日(日) 市民・学生・教職員・卒業生による各種イベント

平成23年を百周年の記念年間として、上記の他、講演会、国際シンポジウム、記念コンサート等、様々な事業を年間を通して開催する予定です。

## キャンパス美化事業

地獄坂を登り切ったところにある商大キャンパスは、ゆるやかにカーブを描く石狩湾を一望できる絶好の眺望ポイントでもあります。百周年を機に構内の環境を整備して、木々に囲まれ花々の咲き誇る、学生や市民が憩うことのできるキャンパス作りを目指します。



▲イメージ図

## 創立百周年記念事業推進室を設置しました

創立百周年を真に意義のある充実した一年とするため、学内に百周年記念事業推進室を設置しました。記念事業の詳細や百周年記念募金については下記にお問い合わせください。また、本学ホームページにも百周年記念事業情報を掲載しています。

【百周年記念事業推進室】

TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493

<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/100thtop.htm>



▲左：中村典雄理事（推進室長） 右：山本真樹夫学長

## 創立百周年記念 募金のお願い

創立百周年記念事業を推進するため、本学は皆様に、その趣旨へのご賛同とともに、ご支援ご協力を「小樽商科大学創立百周年記念募金」にてお願いしております。その目的は、①新学生寮の建設、②教育研究振興基金（仮称）の創設、③百年史編纂、④記念式典・記念講演・国際シンポジウムの開催、⑤学生企画による記念事業、⑥キャンパス美化等の環境整備事業となります。詳しくは、創立百周年記念事業推進室にお問い合わせ下さい。また、「募金趣意書」や本学HP内の専用ページ等も是非ご覧下さい (<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/kihu.htm>)。

【創立百周年記念事業推進室】 〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493 E-mail [ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp](mailto:ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp)





# Topics

〈附属図書館主催イベント〉

ゆめぼーとライブ

## 「ノーマ・フィールドさんの『小林多喜二』を読みませんか」を開催しました



▲講師の荻野富士夫教授（日本近現代史）

附属図書館では、ノーマ・フィールド著『小林多喜二：21世紀にどう読むか』（岩波新書）を荻野富士夫本学教授といっしょに読む《ゆめぼーとライブ》を開催しました。これは前回好評をいただいた「ゲーテ『ファウスト』を読みませんか」に続くライブ第2弾で、4月21日、5月12日、5月26日の3日に分けて行われました。会場の小樽駅前プラザゆめぼーには、20名の定員を上回る延べ75名の市民にお越しいただき、多喜二に対する関心の高さがうかがわれました。

ノーマ・フィールド教授は東京の生まれで、現在はシカゴ大学で日本文学・日本文化を研究しています。平成16年から17年には小樽に在住し、この町が、そして小樽高商が育てた小林多喜二の研究を進められました。今回のゆめぼーとライブでは、今年1月に刊行された新書に関するインタビューの録画視聴や各種の書評などの紹介が行われ、荻野先生を中心に活発な意見交換が行われました。



## 貴重図書展示会2009を開催しました

附属図書館では緑丘祭期間中の平成21年6月27日、28日の両日、館内にて、アダム・スミス『国富論』やマルクス『資本論』等の古典的名著、カンパセレス（ナポレオン法典編纂の中心人物）の手稿等、本学所蔵貴重図書約90点を展示しました。また今回は、本学社会情報学科の前身、管理科学科を創設した古瀬大六元教授の蔵書（図書363冊、雑誌125種、1654冊）を集めた古瀬大六元文庫も展示しました。この文庫は先生の没後、ご遺族のご厚意により平成19年に寄贈いただいたもので、その中には、四女の山下和美氏が先生をモデルに描いた漫画『天才柳沢教授の生活』26冊も含まれ、直筆のイラスト・サインが記されています。あわせて、古瀬先生が図書館長時代、コンピュータを導入して図書館の近代化に着手され、学生、教職員の利用環境の向上に尽力なされた多大なる功績も紹介しました。来場者は2日間で239名にのぼり、「感激しました」、「今後も開催してほしい」等の感想が多く寄せられました。



## 本学教員が執筆した論文などを公開しています：Barrel（バレル）

附属図書館では、小樽商科大学の学術成果を大切に保存し、インターネットで広く利用してもらうことを目的として、平成20年3月から「Barrel」（小樽商科大学学術成果コレクション）を運営しています。Barrelには、本学教員が執筆した、

- ・専門の学術論文誌掲載論文
- ・一般誌の記事やコラム、読みもの
- ・市民講演会の資料

等、7月8日現在、約2400件を収録しています。

展示会で文庫を公開した古瀬大六元教授の論文、ゆめぼーとライブ講師の荻野富士夫教授の著作も、Barrelのサイトから、誰でも無料でパソコン上で読むことができます。また、トップページの右側のリンクから、収録文献の内容や研究内容を紹介するインタビュー記事をのぞいていただけます。どうぞご利用ください！



Barrelトップページ  
<http://barrel.ih.otaru-uc.ac.jp/>



商大図書館学外開放のご案内

開館時間【通常期間】／（月～金）8:45～22:00、（土）10:00～19:30、（日・祝）10:00～17:00

〃 【休業期間】／（月～金）8:45～17:00、（土・日・祝）10:00～17:00

商大図書館 TEL 0134-27-5273



# NEWS

## 高大連携に関する 包括連携協定の締結

大学として高等学校教育に貢献するべく、小樽商科大学はかねてより高校への出前授業や教育実習への協力、入学者選抜に関する情報提供などに努めてきましたが、この度、新たに北海道札幌市立高等学校9校と高大連携に関する包括連携協定を締結いたしました。この協定は高等学校教育と大学教育との円滑な接続を図ることを目的とし、これまでの事業の一層の拡充を図るとともに、将来的には、高大の共同研究会や教職員相互の研修・交流の実施等について検討することとしています。



▲包括連携協定書の調印式（平成21年3月30日、於札幌市教育委員会庁舎）  
左：武田克伸札幌市立高等学校長会長（札幌清田高等学校長）、  
右：山本眞樹夫本学学長

### 【包括連携協定校】



### 昨年度の主な高大連携活動

- 高校訪問
  - ・本学から高校訪問 27校（道内17校、道外10校）
  - ・高校から本学を訪問 25回 369名
- 出前講義 12校 派遣教員13名
- 学び体験ゼミ 札幌手稲高校 参加者46名
- 一日体験型進路探求学習  
札幌藻岩高校・札幌開成高校 参加者計11名
- 高大連携フォーラムへの参加

## OBS フォーラム 2009 「事業再生とリーダーシップ」 を開催しました

小樽商科大学専門職大学院ビジネススクール（OBS）が主催する「OBSフォーラム2009」が、平成21年6月20日、TKP札幌ビジネスセンターで行われました。

今回のフォーラムは「事業再生とリーダーシップ」というテーマのもと、危機に陥った事業を再生するにあたってリーダーの果たす役割と知識について、内閣府本府政策参与/株式会社オフィスピング代表取締役吉村仁氏を講師にお迎えして、講演をしていただきました。

講演では、VIEと呼ばれる事業再生のための理論的なフレームワークを、実際にどのように適用していったのかについて、吉村氏が手がけた三井観光開発株式会社での事例を挙げてお話していただきました。事業再生にあたって、明確なビジョンを提示すること、そしてそのビジョンを従業員全員に浸透させることの重要性を、自分の考えを伝えるために徹底的に従業員と対話を行ったという経験を交えて示され、また生産性向上という観点から企業内における活動のあり方、投資基準、組織構造を変革して

いった過程など、理論に基づく実践的な経営についてお話していただきました。

講演の後は質疑応答が行われ、事業再生という特殊な状況においてどのようにして従業員と向き合ったのか等、実際の局面において直面すると考えられる種々のトピックについて熱心に意見交換が行われ、大変有意義なフォーラムとなりました。



▲多数の参加者を前に講演する吉村氏



商大グッズ：大学生協にて好評発売中！！

商大ラーメン、純米吟醸酒「小樽緑丘」、酒饅頭「商大饅頭」、商大くんストラップ、名刺入れ、エコバック、キーケース、シャープペンシル、ボールペン、オリジナルタオル、コインケース等

## 学生と教員の距離を縮め 教育環境を整えることが喜び

教育開発センターで、「より良い大学教育」を目指し、さまざまな活動に取り組む辻先生。eラーニング・システムや、授業改善アンケートなどを推進し「学生たちに最高の環境で学んで欲しい」と願う先生の心境についてお話を伺いました。

私が所属する教育開発センターは、平成16年に発足した機関です。本学の教材研究、授業評価法やFD（ファカルティ・ディベロップメント＝大学の教育能力の改善と開発）などに組み、大学教育全般をより活性化させることを目的としています。

発足後、最初の仕事はパソコンや携帯端末を用いた学習管理システムであるeラーニング・システムの変更でした。学生のために予習・復習をより簡単にできるようにしましたところ、学生の評判は上々で「どのような内容を学ぶのか全体がつかみやすくなった」、「前期・後期で自分がどのような勉強をしてきたか確認しやすい」など、うれしい声が多く聞かれました。学生たちは勉強を進めるうち、何をどう学べばよいのか、目的を見失いがちです。自分の方向性をしっかり見据え、学習意欲を向上させるためのシステム整備は必要であり、それが精神的な支援にもなります。現在、学生個人個人や個別のゼミを対象とした、まったく新しいeラーニング・システムの導入を検討しています。

### 学生と教員の意思疎通が 良い環境をつくり出す

ほぼ毎年実施されている「授業改善のためのアンケート」も、大切な仕事です。質問事項の改善や見直し、集計や分析などは大学教育の在り方を知る重要な手段です。アンケートの回答率と、学生の授業に対する期待度は、年々上がっています。私は、従来講義がワンクール終了した後にとってのアンケートのほか、毎回の授業後に「ミニットペーパー」というミニアンケートを実施しています。狙いは、これに回答することで授業が変わる、自分の

意見が活かされるという実感を学生に持ってもらうことです。その声を聞き、次の授業に活かすことで、学生が私に親近感を持ち、より多くの意見を寄せてくれるようになりました。

学生と教員間の意思疎通は不可欠です。教員も学生もお互いを理解して受け入れる。両者が望ましい関係を築くための方法論を探し実行することが、私の仕事であり、喜びでもあります。

### 私自身が楽しめる授業を その中で物事を伝え合う

現在、同センターの仕事のほか、基礎ゼミ（心理学）、総合科目Ⅱ（夜間主コース）で授業を持っていますが、私自身がワクワクできるような授業を行いたいと考えています。実際、私は毎回の授業を楽しんでおり、あるアンケート回答の中に「辻先生の授業はとても楽しい。大学に小学校の先生がいるみたいです」と書かれたことがありました。もともと小学校教員志望だったので、そう言われてうれしかったですね（笑）。逆に授業後、学生のリアクションが少ないと、とても不安になります。相手に物事を伝えるためには、相手のことを理解しなければなりません。私の研究の原点は、まさにそこにあるのです。

私の専門は教育心理学ですが、教育工学とも関連する、コンピュータ関係のテーマを多く手がけてきました。どのようなことかという、例えばパソコン操作の場合、ぶ厚い説明書を単に読んででも実に分かりにくいものです。しかし、教えるのが上手な人に直接聞くと、すぐに理解できます。このように、私の研究は「どうしたら人に物事を上手く伝えるか」がテーマです。「人に何かを伝える」というスキル



つじ よし ひと  
**辻 義人 助教**  
〈教育開発センター〉

1997年 東京学芸大学教育学部  
小学校教員養成課程学校教育科 入学  
2001年 同、卒業  
2001年 東京学芸大学大学院教育学研究科 入学  
2003年 同、修了  
2003年 東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程  
人間社会情報科学専攻 編入学  
2005年 小樽商科大学教育開発センター助手  
2007年 東北大学大学院情報科学研究科博士後期課程  
人間社会情報科学専攻 修了  
2007年 小樽商科大学教育開発センター助教

は、教育はもちろん、医療やビジネス、司法の場にも応用できるでしょう。

### 素直過ぎる面がある商大生 日常の疑問から学びを

商大生は皆さんとても素直ですね。素直過ぎて心配な面もあるくらいです。学問をする上においては、少しひねくれた視点も必要です。常に「なぜ？どうして？」と思う、身近な疑問を持ってもらいたいです。それらをどんどん教員にぶつけて欲しいですね。

また同センターは、ゼミやルーキーズ・キャンプなども含め大学の教育活動の全般に関わっています。最近特に力を入れているのが、大学生生活初期に、学生たちに学ぶことの意義を考えてもらう「初年次教育」です。

このように、あらゆる側面からの支援を充実させて、教員も学生も、授業や大学内の雰囲気を楽しんでいると感じてもらうことが、一番の目標です。



## INFORMATION

## オープンキャンパスのご案内

高校生の皆さんに大学構内を実際に見てもらい、模擬講義やキャンパスツアーを体験していただくために下記の日程でオープンキャンパスを開催いたします。大学の説明に加え、各種相談コーナーを設ける他、先輩達の生の声を聞くこともできますので、この機会に是非ご参加ください。学食体験もできます。保護者の方もどうぞ一緒にお越し下さい。

■開催日時/平成21年8月5日(水) 11:00~15:00

- 11:00~11:50 大学説明会
    - ①学長挨拶 ②大学説明 ③入試制度説明
    - ④大学紹介ビデオ上映
  - 12:00~15:00 各種相談会
    - 入試相談 留学相談 就職相談 在学生との相談会
  - 13:00~13:50 模擬講義
    - 【経済学科】絶対優位と比較優位  
—貿易のしくみと利益—(柴山千里先生)
    - 【商学科】保険入門(中浜隆先生)
    - 【企業法学科】親子とは何か  
—いわゆる300日問題を素材として—(遠山純弘先生)
    - 【社会情報学科】いつでも、どこでも、コンピュータを使いたい!  
—ユビキタス情報社会の実現に向けて—(深田秀実先生)
    - 【一般教育等】地球環境問題を化学する(片岡正光先生)
    - 【言語センター①】Learning English through Debate  
(ダニエラ・カルヤヌ先生)
    - 【言語センター②】Arguing your case: how to develop your  
debating skills in English(マーク・ホルスト先生)
  - その他プログラム
    - キャンパスツアー 学食体験 史料展示室見学
- 問い合わせ先: 小樽商科大学入試課 TEL 0134-27-5254・5253  
http://www.otaru-uc.ac.jp/hnyu1/oc2009/opc1.htm

## 公開授業(後期科目)のご案内

社会的に高まる生涯教育のニーズに応えるため、本学は夜間主コースの授業の一部を市民の皆様へ公開しています。後期分(10月1日~2月3日)の受講者を下記のとおり募集いたします。

- 募集期間: 平成21年10月1日(木)から10月16日(金)(土・日を除く)  
申込受付は先着順とし、定員になり次第締め切ります。
- 6時限は17時45分~19時15分、7時限は19時25分~20時55分
- 受講料は1科目9,200円
- 公開科目等のお問い合わせ: 学務課学部教務係 TEL 0134-27-5244

## 商大ビアパーティを開催します

今年も「商大ビアパーティ」の季節がやってきました。音楽サークルの生演奏やよさこいチームの演舞を楽しみながら美味しいビールを飲みませんか。チケットは下記にて販売中。当日券もあります。地獄坂のてっぺんで、夏の一夜をご一緒にどうぞ。



日時: 平成21年8月6日(木) 17時30分から20時30分  
場所: 大学会館前広場(雨天の場合は大学会館内)  
チケット販売場所: 総務課総務係、大学生協、  
駅前プラザゆめぼーと  
問い合わせ先:  
小樽商科大学総務課総務係 (TEL 0134-27-5206)

## 大学祭が盛大に行われました



▲ゲスト「きゃんきゃん」

## 「翔楽舞」セミファイナル進出!



▲よさこいソーラン祭り 2009.6.13

## 国立大学法人小樽商科大学の役職員の給与水準の公表について

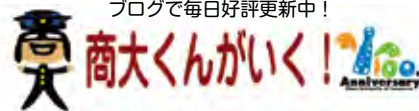
本学では、平成20年度の「国立大学法人小樽商科大学の役職員の給与水準」を下記ホームページにて公表しております。

http://www.otaru-uc.ac.jp/hojin/kyuyosuijun/kyuyosuijun2008.pdf  
問い合わせ先: 小樽商科大学総務課人事係  
(TEL 0134-27-5208)

## 平成21年度後期行事予定

10月1日	後期授業開始
12月23日~1月11日	冬季休業
1月16日~17日	大学入試センター試験
2月10日~19日	後期定期試験
「小樽雪あかりの路」にも参加予定です。	
2月25日	入学試験
3月19日	学位記授与式

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等を  
ブログで毎日好評更新中!



http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/

**編集後記** 今回記事に盛り込めなかった「応援団を復活させる会」のお考えを紹介いたします。「小樽市民の皆様は、私達のことを、年配の方は「高商さん」、年下の方は「商大さん」と呼び、慈しみ育てて下さいました。応援団を復活させることで商大を活性化し、更には小樽にも元気を与え、それにより市民の皆様にも万分之一でもご恩返しできればと願っています。」(お)

**編集スタッフ** 尾形弘人、山本賢司、上野耕三郎、堺昌彦

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構です。ですから下記にお寄せください。  
E-mail kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX 0134-27-5213

http://www.otaru-uc.ac.jp

ヘルメス(Hermes)は、ギリシャ神話の神の一人で伝令の神、また商業、学術などの神、クーリエ(courier)とはフランス語で郵便物のことですが「~通信」として新聞紙等に用いられています。ですから「ヘルメス・クーリエ」とは「商大通信」であるご理解ください。

